

村民 各位

天龍村長 永嶺 誠一

「新型コロナウイルス感染症の”いま”についての知識」について

新型コロナウイルス感染者の状況は全国的に増加傾向にあり、飯田下伊那地域においても「新型コロナウイルス警報」が発出されていますが、村民の皆様におかれましては、年末年始を控え一層の感染予防対策をお願いするところであります。

新型コロナウイルスの最近の情報として厚生労働省より出されました資料より抜粋し概略版を作成しましたので、感染予防にお役立ていただけますようお願いいたします。

住民課健康支援係
電話 32-1021

新型コロナウイルス感染症の “いま “についての知識・Q & A (2020年10月時点)

Q1. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人や死亡する人はどれくらいですか。

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人の割合や死亡する人の割合は年齢によって異なり、高齢者は高く、若者は低い傾向にあります。

令和2年11月18日までに診断された人のうちの割合

	全体	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
重症者の割合	1.7%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.8%	1.4%	3.3%	6.5%	3.2%
死亡率	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	1.9%	6.2%	14.8%

※「重症者の割合」は、新型コロナウイルス感染症と診断された症例（無症状を含む）のうち、入院治療等を要した者の割合。「全体」には年齢階級が不明・調査中・非公表の物を含む。

※「死亡率」は、新型コロナウイルス感染症の陽性者数に対する死亡者の割合。

Q2. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化しやすいのはどんな人ですか。

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化しやすいのは、**高齢者と基礎疾患のある方**です。

重症化しやすい基礎疾患の例	慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満
注意が必要な方	妊婦、喫煙歴のある方

Q3. 新型コロナウイルスに感染した人が、他の人に感染させる可能性がある期間はいつまでですか。

A 新型コロナウイルスに感染した人が他の人に感染させてしまう可能性がある期間は、**発症の2日前から発症後7～10日間程度**とされています。この期間のうち、特に発症の直前・直後でウイルス排出量が高くなると考えられているため、新型コロナウイルス感染症と診断された人は、**症状がなくとも、不要・不急の外出を控えるなど感染防止に努める必要があります。**

※新型コロナウイルス感染症（COVID19）診療の手引き・第3版より

Q4. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、どれくらいの人が他の人に感染させていますか。

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、他の人に感染させているのは2割以下で、多くの人は他の人に感染させていないと考えられています。このため、1人の感染者が何人もの人に感染させてしまうことがなければ、新型コロナウイルス感染症の流行を抑えることができます。

- ・感染防護なしに3密（密閉・密集・密接）の環境で多くの人と接することなどを控える。
- ・体調が悪いときは不要・不急の外出を控える
- ・人と接するときにはマスクを着用するなど、

※ウイルスの吸入率は、布マスクを感染者が着用した場合は60～80%減少、感染者と接する人が着用した場合は20～40%減少。

Q5. 新型コロナウイルス感染症を拡げないためには、どのような場面に注意する必要がありますか。

A 新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染するため、3密（密閉・密集・密接）の環境で感染リスクが高まります。

リスクが高まる5つの場面	①飲酒を伴う懇親会等	気分が高揚し注意力が低下、大声が出やすい、回し飲みなど感染リスクが高まります。
	②大人数や長時間におよぶ飲食	人と人との接触する機会が増え感染リスクが高まります。
	③マスクなしでの会話	飛沫感染やマイクロ飛沫感染など、うつす側とうつされる側としてリスクが高まります。
	④狭い空間での共同生活	長時間の閉鎖空間、寮生活やトイレなど共用部分での感染が疑われます。
	⑤居場所の切り替わり	仕事での休憩時間など居場所が変わると、気のゆるみや環境の変化により感染のリスクが高まります。

Q6. 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査にはどのようなものがありますか。

A 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の体内にウイルスが存在し、ウイルスに感染しているかを調べるための検査です。なお、抗体検査は、過去に新型コロナウイルス感染症にかかったことがあるかを調べるものであるため、検査を受ける時点で感染しているかを調べる目的に使うことはできません。

検査の対象者	検査種類 検査手法	PCR検査（LAMP法含む）			抗原検査（定量）			抗原検査（定性）		
		鼻咽頭	鼻腔	唾液	鼻咽頭	鼻腔	唾液	鼻咽頭	鼻腔	唾液
有症状者	発症から9日目以内	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	発症から10日目以降	○	○	—	○	○	—	△ ^{※1}	△ ^{※2}	—
無症状者		○	—	○	○	—	○	—	—	—

検査手法：「鼻咽頭」＝鼻咽頭ぬぐい液、鼻腔＝「鼻腔ぬぐい液」、「唾液」＝唾液を使用。

※1 発症2日目から9日目以内に使用

※2 陰性の場合は鼻咽頭PCR検査等を実施

Q7. 新型コロナウイルス感染症はどのようにして治療するのですか。

A 軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多く、必要な場合に解熱薬などの対症療法を行います。呼吸不全を伴う場合には、酸素投与や投薬治療を行い、改善しない場合は人工呼吸等による集中治療を行うことがあります。

治療法の確立もあり、新型コロナウイルス感染症で入院した方が死亡する割合は低くなっています。

Q8. 新型コロナウイルスのワクチンは実用化されているのですか。

A 現在、新型コロナウイルス感染症のワクチンについては、国内・海外で多数の研究が精力的に行われており、通常より早いペースで開発が進み、既に臨床試験を開始しているものもいくつかあります。

一般的に、ワクチンには感染症の発症や重症化を予防する効果がありますが、開発中の新型コロナウイルス感染症ワクチンの、実際の効果については、今のところ分かっていません。

また、ワクチン接種には、副反応による健康被害が極めて稀ですが不可避免的に発生します。現在開発中の新型コロナウイルス感染症ワクチンの副反応については、臨床試験等で確認されているところですが、日本への供給を計画している海外のワクチンでは、ワクチン接種後にワクチン接種と因果関係がないものも含めて、接種部位の痛みや、頭痛・倦怠感・筋肉痛等の有害事象がみられたことが報告されています。（ファイザー社、アストラゼネカ社、ノババックス社が開発中のワクチン）